

タイトル：SECOND ARENA MIKAWA

コンセプト：スポーツを通じて運動の促進と賑わいを果たせる。

理由：新幹線を利用した際、三河安城駅を利用する人が少なく訪れる人が少ない。そこで三河安城市にあるシーホース三河と建設予定のアリーナを活かしスポーツを中心に賑わい、集うことのできる空間を作ることで三河安城市を活性化させる。

現状と問題：ボールを日常的に扱える空間が少ない、三河安城駅で降車する人が少ない、アリーナの建設にあたり相互に賑わう空間が必要。

解決策：カフェ&バー、丘、バスケットコート、芝の設置

アリーナとの関係性を強めるため見る、見られるの関係を意識した配置設定。

インパクトのある物を置くことで目を引く。広場内のどの場所でもスポーツの試合を観戦できるようにパブリックビューイング用のスクリーンを丘の下の倉庫部分に完備し、日常的に観戦をすることが可能。

具体的な使われ方：カフェ&バー 日中はカフェを展開することでバスケをする子供や芝生で遊ぶ子供たちを見守ることができる。夜の時間帯は、お酒を提供することでアリーナ帰りに滞留する人が増える。また、スポーツをパブリックビューイングとして観戦することができるのでお酒とともに利用してもらおう。

丘 芝生の丘を設置することで形にバリエーションをつける。丘を登ることでデッキに行くことが可能になり、アリーナのように上からバスケットボールをする人を見ることができ、遊ぶ子供たちを見ることができる。また、カフェの間でソリを貸し出すことで子供たちに遊んでもらう。丘の下に倉庫を作ることで貸し出し用のソリやパブリックビューイング用のスクリーン、イベントで使うようなものを収納可能にする。

バスケットコート バスケットボールが楽しめるほか、イベント時にはフットサルや子供たちに対するスポーツの教室などを開催することが可能。メインのバスケットコートと、子供用のバスケットコートをそれぞれ設けることで年齢に関係なく利用することが可能。また、カフェと隣接するメインのバスケットコートには手動式の屋根を取り付けることで雨の場合でも利用が可能となる。

芝 丘、カフェ、バスケットコート以外の部分をフラットな芝生で統一することで子供たちが自由に遊びまわることが可能。大きな木を設置することで木陰を作りより滞留しやすい空間にする。木の配置を導線と被らなようにすることで芝生を広々と見せる。

運営管理：カフェ部分はテナントとし、日中はカフェ、夜はバーとして運営する。バスケットコートの屋根は利用者が手動で行う。スポーツイベントは使う meet に管理運営をしてもらい、日常的に行われるパブリックビューイングにおいてはバーを運営する店舗にスポーツバーの一部として運営管理を行ってもらおう。

事業費：丘、カフェ部分、バスケットコート合わせて 8000 万円と仮定しカフェから月々 20 万円を納めてもらう。予定費用の 5000 万円を引いた残りの 3000 万円は 12.5 年で完済する。